2.2 小樽

三井物産橋本組の人夫 近く故郷へ引上げ？

小樽勞働界を見かぎり

◇争議の状況◇

小樽の勞働争議の熱も段々とさめて來て今では最う餘り市民の口に入る數く上らなくなつた。それ程に此争議も下火となつた譯で本日は一千九百九十八の勞働者が

執業し て居り就業人夫は八百二十七人になり昨日に比し就業人員が百二十八人減少し就業人夫が四十五人増加して居るが斯の如く昨日就業、本日就業の兩方面に於ける人夫數に異動を來たすのは三井物産太田組橋本組の人夫達の就業不規則の爲であつて昨日は八十五 就業して居たのに本日は昨日就業人夫が給料を貰つた爲めか約半數休業し僅に三十七人が就業して居るに過ぎない状態である。本組方面は如何であるかといふに本日午前八時に

運航し て居る艀數は百三十七隻あり就業に依つて碇泊して居るものは一隻もなく港内に於て運搬作業に從事して居る艀は貨物艀が二十隻、石炭艀が十隻で合計三十隻あるといふ譯で昨日に比し不足を來して居るのは艀船の就業時間が遲れた爲と貨物船、運搬が減少である爲めらしく就業されて居る、赤石人夫は石炭現場が七百三十九人、艀場が百七十五人、倉庫現場が百三十五人で合計千四十九人が就業して居るらしいが作業が昨今漸く充實して來だのは人夫の内にもボツ〳〵

古巣へ 歸る者が出て來た爲で赤三井物産橋本組の送りも目下の様な小樽の勞働状態では到底今後望みを賭けることが出來ないの、生活不安定な小樽に居るより生れ故郷の寄森へ歸つて働いた方が良いとの意嚮で一同は近日中に引上る模様である、斯くの如くに小樽の勞働争議も段々と立ち消えの状態にあるのに合同勞働組合に於ては之が前後策を考究中の由であるが昨夕何者かが全小樽の警官に對し「巡査、署長、部長殿

◇警官にビラを撒布◇

中は皆資本家の手先になつて居るのに君達は其下で馬車馬の様の

生命を 賭して働いてる

る、働く點に於ては君達も吾等も同様である、君達も待遇改善を目標として罷業せよ」との罷業勸誘ビラ撒布したが相手が警官であるだけに一笑に附せられた有様で勸誘者の出現なくとも此争議はもう立ち消えをするもの如くである

2.2 小樽

艀業者の肚判らず 新正會業を煮す

＝今夜も更に會見＝

既報の如く小樽港勞働争議は恒久性を帶來たりし爲め勞資双方共態度の妙を極め一朝一夕にして之が

解決は 望まれざるの状態となりある爲め正副の調停者市も其の進捗を見る能はず調停者側から業を煮やし争議の解決を行はんと焦りつゝあるが昨夜も商業會議所に於て艀業組合、代表者と會見し勞資の妥協策を講ずる爲め種々協議する所あつたが艀業組合側では先日の同組合總會に於て出席なき爲め調停者側の要望せる各項に對し確答し能はず依つて今七日一日迄回答の猶豫ありたしとの旨申出たるにより昨夜の會合は何等解決の曙光すら見る能はず遂に

流會の 止むなきに至つたが勞資双方共に今では感情問題に絡まり相互に意地の張り合をしてゐる形は周知の如くである而して又候最後の調停が今夜六時より會議に於て行はれると云ふが

果して 勞働者側は資本家側の主張に對し讓歩するか一方艀業組合が調停者に對し干渉不要との胸臆を吐露するか態度を表するかに依つて和解か決裂するか決する譯で之に依て新正の調停成立の見込み最後的に判明する筈である